



連盟創立60周年  
内閣総理大臣杯争奪

第60回記念 西日本実業柔道  
団体対抗大会報告

連盟60年の歩み

頂きは高く 裾野は広く  
*Altius, Latius*

令和4年5月8日(日)

ベイコム総合体育館(尼崎市記念公園)



## 今日と未来を、つなぐ。

変化が激しく、新しい価値観が生まれる時代。  
今日という、一日一日を大切に。  
その積み重ねが、未来へとつながっていく。  
日本生命は今を生きるすべての人たちの  
トータルパートナーとして  
これからも社会に向き合い続け、ともに歩んでいきます。



## ご挨拶

西日本実業柔道連盟 会長 森 詳介



西日本実業柔道団体対抗大会は一昨年以来の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、2年間延期を余儀なくされましたが、第60回の記念大会を盛大に開催できたことを心より嬉しく思います。

本大会は、昭和35年の第1回開催以来60年間、我が国を代表する選手から、仕事の合間に町道場で汗を流す愛好者まで、柔道をこよなく愛する方々が幅広く集い、「頂は高く、裾野は広く」をモットーに、柔道界発展の一翼を担ってまいりました。

また、本大会は「新人の登竜門」としても高い評価を賜っており、本大会で頭角を現した多くの選手が、国内の大会のみならず世界の検舞台へと活躍の場を広げております。昨年の東京オリンピックにおいても実業柔道連盟から13名の選手が日本代表として出場し、初日からメダルラッシュという快挙を成し遂げ、金9個、銀2個、銅1個という歴史に残る素晴らしい成績をおさめました。

私は柔道で、多くのことを学び、これまでの人生でも常に大切にしてきました。その一つは「己を知り、人を知る」ということです。全柔連の山下泰裕会長は試合前に常に「お前が思っているほどに相手は強くない」しかし「お前が思っているほどに相手は弱くない」と言いきかせていたそうです。これは常に謙虚な心で等身大の自分を知り、平常心を保つということであり、そのような山下さんだからこそオリンピック金メダリスト、全日本選手権9連覇、前人未踏の公式戦203連勝という偉業を成し遂げられたのではないかと思います。また、このことは「勝って驕らず、負けて腐らず」という品格ある試合態度にも通ずるものです。

もう一つは、「礼儀」と「相手を思いやる気持ち」です。嘉納治五郎先生の唱えられた「自他共栄」の教えにありますように、柔道において相手は敵ではなく、自分を高めてくれる存在です。また、柔道は勝ち負けのはっきりする競技であるだけに負ける者、弱者の心の痛みがわかり、思いやりの心を育てます。この点、昭和39年の東京オリンピックにおいて、オランダのヘーシンク選手が優勝を決めた瞬間、コーチの人々が喜びのあまり畳に駆け上がるうとしたのを手で強く制した姿は、この精神を体現するものとして記憶に残っております。また、昨年の東京オリンピックにおける日本代表選手の礼法の清々しさに感動を覚えたのは私だけではないでしょう。

どうか、本大会に参加された選手諸君には、常に平常心に裏打ちされた自信を持って、これからも柔道で培ったものを大切にしながら、日々精進を重ねられ、「精力善用」の精神で立派な実業人として、社会の発展に寄与されることを期待しています。

最後にになりましたが、本大会開催にあたり、絶大なご支援、ご協力を賜りました尼崎市様をはじめ、会員企業、関係諸団体の皆様、大会運営関係者の皆様に、重ねて感謝を申し上げます、私のご挨拶といたします。

## 第60回記念西日本実業柔道団体対抗大会を終えて

西日本実業柔道連盟 理事長 瀬戸口 正征



今を去る2年前、令和2年の理事会・常任理事会合同会議が1月31日に開催され、5月8日に記念大会として盛大に挙行することが決定されました。その準備等を例年通り実行し始めた2月末、豪華観光客船に端を発したコロナ騒動が勃発。結局、それ以後の連盟行事等を一切中止せざるを得なくなりました。そんな経緯を経て3年ぶりに開催にこぎつけた今大会でありましたが、奇しくも全柔連の強化選手選考会開催日と重なったため、有力強豪選手を抱えるチームにとっては断腸の思い、旭化成は歴史的な欠場、日本製鉄も男子5人制の部は諦め、男子3人制の部のみの出場にならざるを得ませんでした。主催する当連盟としても忸怩たる思いでありました。

しかし当初の予定通り、記念大会としてエリアを超えて隣県チームの参加を呼び掛ける等、55チームの参加を得ました。ここに至る迄の加盟チームの、また連盟役員、委員等のご尽力に感謝心よりの敬意を表したいと思います。

当連盟が今後とも「頂は高く、裾野は広く」をモットーに、日本柔道を支え、日本産業を担うべき素晴らしい社会人、柔道人を育成する場となることを期待しています。

# 第60回記念 西日本実業柔道団体対抗大会成績一覧表

2022(令和4)年5月8日(日)・ベイコム総合体育館(尼崎市記念公園)

団体	5人制の部	優勝	準優勝	第3位	
		日本エースサポート	アドヴィックス	九州電力	興徳クリーナー
	3人制の部	優勝	準優勝	第3位	
日本製鉄		アドヴィックスA	豊田自動織機	J R 九州	
第5位					
	安川電機 B	トヨタ自動車 A	ダイコロ B	OGAWA 警備	
女子の部	第1位				
	アドヴィックス				

## 【最優秀選手賞】

男子5人制の部(優勝チーム) : 銅金賞(1名)  
 女子の部 : 岡林賞(1名)  
 男子5人制の部(準優勝チーム) : 米澤賞(1名)  
 男子3人制の部 : 龍村賞(1名)

中島 大貴(日本エースサポート)  
 黒木七都美(アドヴィックス)  
 菅原 健志(アドヴィックス)  
 黒岩 貴信(日本製鉄)

## 【松本賞】(最優秀新人賞)

男子の部(1名)  
 女子の部

中島 大貴(日本エースサポート)  
 (該当者なし)

## 【優秀選手賞】

男子5人制の部(3名)

上野 翔平(日本エースサポート)  
 三村 暁之(アドヴィックス)  
 平下麟太郎(興徳クリーナー)  
 西山 瑠星(日本製鉄)  
 前田 峻登(アドヴィックス)  
 植田 祐太(J R九州)  
 中江 美裕(アドヴィックス)  
 飯野 鈴々(J R九州)  
 安松 春香(J R九州)

男子3人制の部(3名)

女子の部(3名)



銅金賞  
日本エースサポート  
中島大貴選手



岡林賞  
アドヴィックス  
黒木七都美選手



米澤賞  
アドヴィックス  
菅原健志選手



龍村賞  
日本製鉄  
黒岩貴信選手



日本製鉄 黒岩選手による選手宣誓



「内閣総理大臣杯争奪 第60回記念 西日本実業柔道団体対抗大会」は、5月8日にベイコム総合体育館(尼崎市記念公園)において開催された。今回は、第60回の記念大会として、男子5人制、男子3人制、女子の部の3つのカテゴリーを設け、愛知、岐阜、福井の近隣各県からも特別参加いただいで、男子51チーム、女子4チームの合計55チームで開催された。

今大会もインターネット放映を実施し、開会式、第一及び第二試合での全試合、並びに閉

**男子**  
5人制の部は日本エースサポートが、3人制の部は日本製鉄が優勝

**女子**  
アドヴィックスが優勝

会式の模様をユーチューブを通じて画像配信を行った。

10時15分、瀬戸口正征大会委員長の開会宣言にて開会式が始まり、国歌斉唱の後、森 詳介大会会長が開会の挨拶を行った。続く尼崎柔道協会会長 村上弘一様を始めとする来賓紹介の後、第60回大会を記念して永年出場チームの表彰が行われた。

これは、昭和35年の第1回大会以降、通算19回以上の出場、または10年連続出場以上の企業・団体に対し、永年のご協力に対する感謝の意を表して行われたもので、対象の21チームの紹介に続き、21チームを代表して第1回大会から60回連続出場の日本製鉄に感謝状と副賞が送られた。

最後に日本製鉄の黒岩貴信選手による選手宣誓が行われ、開会式が終了。引き続き4試合場にわかれて試合が開始された。



連盟役員



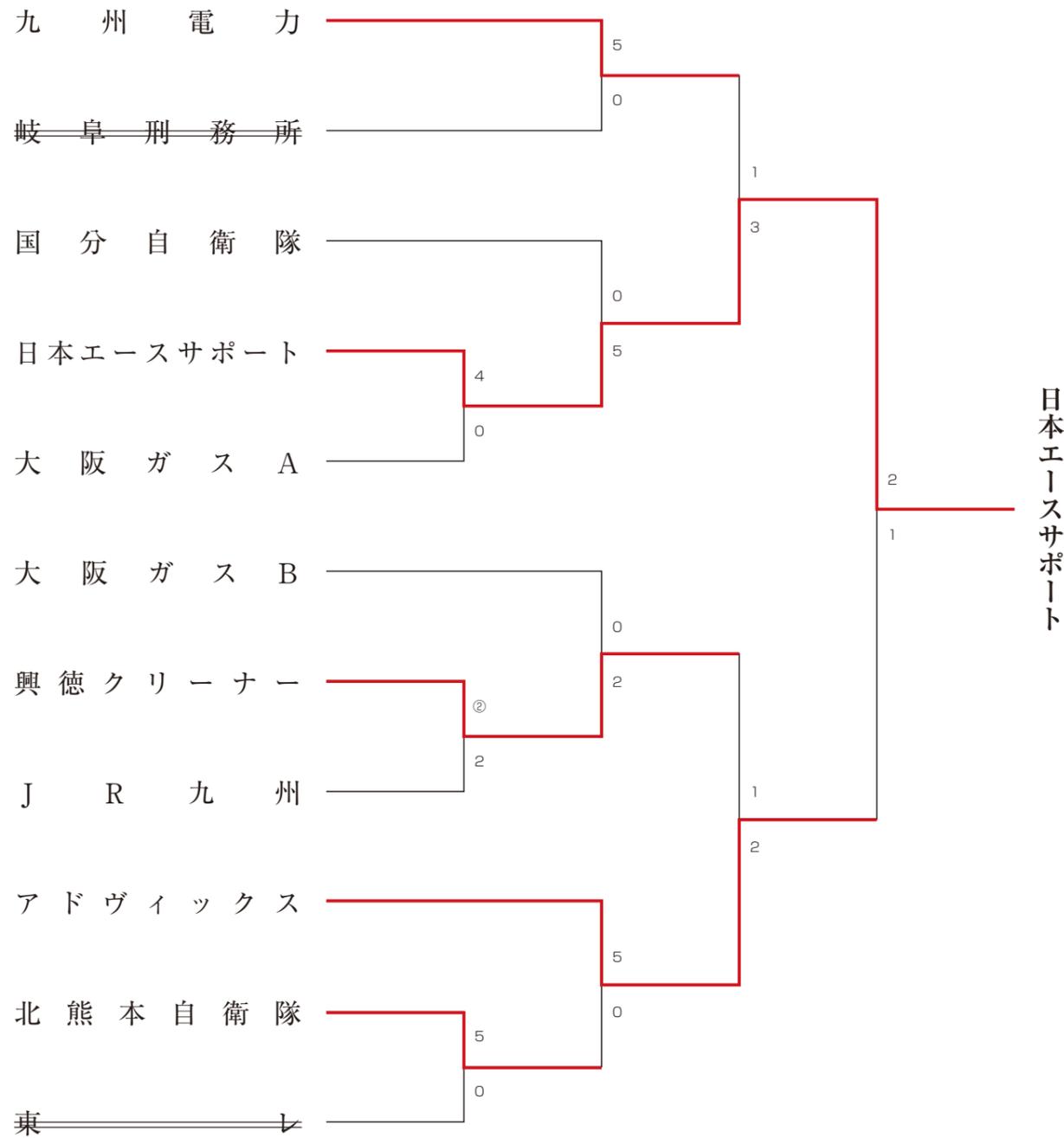
永年出場チーム表彰



開会式全景

# 各部勝ち上り表

## 男子5人制の部



## 女子の部

チーム名	JR九州	吉川工業	トヨタ自動車	アドヴィックス	勝敗	順位
JR九州	-	3-0 ○	3-0 ○	1-① ×	2	2
吉川工業	0-3 ×	-	0-3 ×	0-3 ×	0	4
トヨタ自動車	0-3 ×	3-0 ○	-	0-3 ×	1	3
アドヴィックス	①-1 ○	3-0 ○	3-0 ○	-	3	1

## 男子5人制の部

### [準決勝戦 第1試合]

九州電力 1 - 3 日本エースサポート  
 (先鋒) 中島 淳 2段 引き分け 野上廉太郎 2段  
 (次鋒) 浦川 大生 3段 縦四方固 ○ 中島 大貴 3段  
 (中堅) 荒木 海人 2段 反則勝 ○ 小原 弘輝 2段  
 (副将) 七戸 虎 4段 ○ 小内 刈 上野 翔平 2段  
 (大将) 宮本 康平 3段 技有優勢 ⊖ 三井 大輝 3段

### [決勝戦]

日本エースサポート 2 - 1 アドヴィックス  
 (先鋒) 野上廉太郎 2段 引き分け 三村 暁之 3段  
 (次鋒) 中島 大貴 3段 ⊙ 指導差2 古川 裕熙 3段  
 (中堅) 小原 弘輝 2段 引き分け 田中 太基 3段  
 (副将) 上野 翔平 2段 ○ 横四方固 磯村 亮太 3段  
 (大将) 三井 大輝 3段 技有優勢 ⊖ 菅原 健志 4段

### [準決勝戦 第2試合]

興徳クリーナー 1 - 2 アドヴィックス  
 (先鋒) 砂田 将吾 2段 体落とし ○ 三村 暁之 3段  
 (次鋒) 秋田 滴 3段 引き分け 古川 裕熙 3段  
 (中堅) 平下麟太郎 3段 ○ 反則勝 田中 太基 3段  
 (副将) 近藤 樹 2段 引き分け 磯村 亮太 3段  
 (大将) 釜石 康太 3段 合せ技 ○ 菅原 健志 4段



[日本エースサポート]

## 男子3人制の部

### [準決勝戦 第1試合]

豊田自動織機 0 - 3 アドヴィックスA  
 (先鋒) 増田 良生 2段 大内 刈 ○ 前田 峻登 4段  
 (中堅) 八重樫 祐太 4段 指導差2 ⊙ 圓山 泰雄 4段  
 (大将) 野々部 雅也 初段 崩袈裟固 ○ 近藤 将太郎 4段

### [決勝戦]

アドヴィックスA 0 - 3 日本製鉄  
 (先鋒) 前田 峻登 4段 払 腰 ○ 田中 大貴 4段  
 (中堅) 圓山 泰雄 4段 腕挫十字固 ○ 西山 瑠星 3段  
 (大将) 近藤 将太郎 4段 大外 刈 ○ 黒岩 貴信 3段

### [準決勝戦 第2試合]

JR九州 0 - 3 日本製鉄  
 (先鋒) 松原 悠 3段 払 腰 ○ 田中 大貴 4段  
 (中堅) 座波 吉平 2段 縦四方固 ○ 西山 瑠星 3段  
 (大将) 植田 祐太 2段 縦四方固 ○ 黒岩 貴信 3段



[日本製鉄]

## 女子の部

### [最終戦]

JR九州 1 - ① アドヴィックス  
 (内容勝ち)  
 (先鋒) 松下 沙都 3段 袖釣込腰 ○ 黒木七都美 3段  
 (中堅) 飯野 鈴々 3段 ⊖ 技有優勢 富田 彩加 3段  
 (大将) 安松 春香 4段 引き分け 中江 美裕 3段



[アドヴィックス]



## 西日本実業柔道連盟62年の歩みと 今後に向けた取り組み

### ○西日本実業柔道連盟について

当連盟は昭和35年(1960年)に発足しました。発足に当たっては、丸善石油(現コスモ石油)、東洋レヨン(現東レ)、富士製鐵(現日本製鐵)、南海電気鉄道等の民間企業に勤務する柔道家達の奔走と読売新聞社の全面的バックアップがあったと記録されています。

西日本実業柔道団体対抗大会(第1回大会は「近畿実業団柔道大会」、その後「西日本実業団柔道大会」から現在と大会名称の変遷を経る)は、上村春樹現講道館長始め、幾多の名選手、オリンピックゴールドメダリストを輩出し、昭和38年(1963年)の東京オリンピック前年のプレ五輪開催と令和2年、3年のコロナ禍による吉凶相伴う開催見送りがありました。ここに第60回記念大会を開催の運びとなりました。

また、第2回大会時に時の池田勇人内閣総理大臣から優勝カップ2基が贈られ、内閣総理大臣杯争奪を戴冠することになりました。

### ○永年出場企業、団体表彰

第1回大会の有段者の部の優勝は東洋レヨン(現東レ)で、今回まで連続出場の日本製鐵以下多くの企業、団体が出場を重ねています。

下段記載の企業、団体には、表彰状及び副賞を授与し永年の出場に謝意を表しています。

### ○「頂きは高く、裾野は広く」の実践について

当連盟が主催する本大会は第1回の有段者の部、無段者の部の2部制から始まり、カテゴリー区分の変遷を経て来ましたが、その本質は、実業団に所属する我が国を代表するトップ選手から、市井の道場で汗を流し

大会出場を練習の目標、励みとする柔道愛好青年まで幅広い層を対象にしてきました。

これを表現するに、本大会プログラム表紙にも掲げた「頂きは高く、裾野は広く」という標語に尽くすことが出来ます。

当連盟では、これを単なる標語に留めず、連盟創立60周年を期して微力ではありますが、この具現化に取り組みこととしました。

その端緒として、今大会では初参加チームと女子チームの参加料を免除しました。(今後概ね5年継続予定)また、コロナ禍が終息すれば開催地の少年少女対象の柔道教室を再開します。これ以外に、特に柔道の裾野拡大に知恵を絞る工夫を重ねていく所存です。

### ○クラウドファンディングの導入

当連盟理念の具現化には、それ相応の原資も必要なことから、インターネットを介して不特定多数の人々から少額資金調達手法である「クラウドファンディング」の導入を目指し、制度設計を進めています。

この趣旨に賛同されご協力いただく方には、当連盟ならではの返礼品も検討中です。近く連盟ホームページ等を介して広く周知を図ってまいります。その節は宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

### ○歴代会長

- 倉田 定雄  
昭和35年(1960年)～昭和38年(1963年)
- 銅金 樓一  
昭和38年(1963年)～昭和50年(1975年)
- 岡林 事  
昭和50年(1975年)～昭和56年(1981年)
- 龍村 基雄  
昭和56年(1981年)～平成2年(1990年)
- 松本 甫  
平成2年(1990年)～平成15年(2003年)

米澤 三郎

平成15年(2003年)～平成18年(2006年)

森 詳介

平成18年(2006年)～現在に至る

### ○永年参加表彰の企業・団体一覧

#### ●表彰基準

(ア)第51回大会以降エントリーし、第1回大会から通算20回以上出場。

(イ)第51回大会以降連続10回出場。(但し、エントリー後に震災、事故等の事情により欠場の場合も含む。第59回大会に出場して、今大会欠場の場合も含む。)

#### 【企業・団体名】

- ・60回連続出場 日本製鐵
- ・59回出場 東レ、大阪ガス
- ・50回出場 京阪柔道クラブ
- ・41回連続出場 ダイコロ
- ・37回連続出場 九州電力
- ・35回出場 日本生命
- ・33回出場 安川電機
- ・21回連続出場 日本エースサポート
- ・20回連続出場 関西医療学園
- ・51回以降連続10回出場 九電工、京都医療専門学校

#### (今大会欠場の表彰企業・団体)

- ・58回出場 クラレ岡山
- ・55回出場 旭化成
- ・47回出場 三菱ケミカル広島
- ・43回出場 帝人松山
- ・25回出場 神鋼環境ソリューション
- ・24回出場 肥後銀行
- ・20回出場 関西電力、甲南柔友会
- ・19回出場 三菱電機神戸
- ※日本製鐵、東レ、大阪ガス、京阪柔道クラブは、第1回大会に出場。

## 永年参加表彰企業を代表して



日本製鐵 監督

落合 幸治

西日本実業柔道団体対抗大会が本年60回の節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。日本製鐵柔道部は、第1回大会(当時は読売新聞社杯争奪近畿実業団柔道大会)から現在に至るまで、60回連続で出場させていただきました。弊社柔道部におきましても、今年で創部73年となりますが、これもひとえに、西日本実業柔道連盟各位の多大なるご尽力があつてのものとして深く感謝しております。こうした永年、西日本実業柔道連盟とともに年々歳々着実に充実発展し、この度、永年参加企業として当社が代表して表彰を受けましたことは、喜びに堪えない次第であります。

弊社柔道部の伝統でもありますが、我々実業柔道を志す者は、柔道家である前に、立派な社会人・職業人でなくてはなりません。今後とも「柔道を通じて実業人の人格の形成と、相互の親睦を図り、我が国産業の健全な発展に寄与する」という目的を念頭に、微力ながらも今後更なる実業柔道の発展に貢献すべく、より一層の努力をして参る所存でございます。

最後に、西日本実業柔道連盟各位には、今後とも引き続きご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、益々の発展を祈念いたします。

## 永年参加企業として



東レ柔道部 総監督

中村 伸一

内閣総理大臣杯争奪 第60回記念 西日本実業柔道団体対抗大会が開催できましたこと誠に御礼でございます。

また、永年勤続企業表彰をいただきましたこと感謝申し上げます。

今回の寄稿にあたり、弊社柔道史(1980年発行)を調べたところ、第1回大会は、昭和35年(1960年)4月17日に箕面市丸善石油体育館で近畿実業団柔道大会として35チームが参加し、1チーム5人制初段2名、二段2名、三段1名の点取り試合で行われたと記録されています。その中で、東レの前身である東洋レヨン滋賀工場A・B2チームが優勝・準優勝の成績を残しました。翌昭和36年の第2回大会から西日本実業団対抗柔道大会に名称が変わり、この大会でも1部、2部ともに優勝、以降4大会連続優勝し、昭和30年代の東レ黄金時代の話は入社から現在に至るまで約40年間諸先輩からずっと伺ってきました。過去の栄光から考えると、先輩方が現状に対して非常に物足りなさを感ずることは当然だと改めて感じています。

私が出場した1980年代は大阪修道館で4月に開催され、大阪城の桜が綺麗な時期であったことと、1部は新日鉄広畑、旭化成延岡の2

チームで優勝が争われ、東レは2部の10段制に出場し、平成元年には優勝した良い思い出もあつたことが記憶にあります。

2007年から10年間の監督時代は、ベイコム体育館に会場が移り、5月連休明けに開催1部で出場し、強豪チームを接戦に持ち込むことも多くありましたが、勝運がなく1回戦で敗退。ただし、くじ運だけは強く1部残留8回、2部降格1回、降格した翌年は2部優勝、1部昇格と力がありながら一度も入賞できなかったことへの悔しさが今もあります。

東レが強かった時代を知るライバルチームのOBの方から、「昔は東レを目標に頑張ってきた。復活を期待しているよ」と言われる度に、感謝の気持ちと、一方ではそのように導けない自らへのもどかしさで一杯です。

私もいつしか60の声が聞こえるようになりました。伝統ある柔道部という誇りを忘れず、後輩達が新たな歴史を築けるようにバックアップしていきたいと思えます。

また、数年前から競技役員として大会に参加し、各社の方と交わることで会社では得ることができないことをたくさん学ばせていただいています。

この大会が、更なる発展できるように微力ながら協力していきたいと思っておりますので、引き続きご指導・ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

# 永年参加企業表彰を受けて



旭化成 柔道部監督  
吉田 優也

西日本実業柔道連盟創立60周年を心よりお慶び申し上げます。

旭化成柔道部は、昭和21年に創部し、70年余りの歴史を築いてまいりました。

柔道競技においては、「日本一、世界一を目指す」ことを目標に掲げ、柔道修行を通じて、強靱な体力と精神を鍛えること、並びに礼節を重んじて、社会で活躍ができる人材を育成することを目指してまいりました。

競技成績につきましては、個人戦では、10名のオリンピックメダリストと6名の全日本選手権優勝者を輩出し、団体戦では、全日本実業柔道団体対抗大会で18回、西日本実業柔道団体対抗大会で31回の優勝を達成してまいりました。競技引退後も、柔道界や会社生活で活躍している先輩方を数多く輩出しております。

今年の世界柔道選手権大会には、当部から3名の代表選手が出場致しました。24年パリオリンピックでも当部から代表選手を輩出し、日本柔道の真髄を披露すると共に、金メダルの獲得を目指します。今後とも、先輩方の築いて頂いた伝統を受け継ぎ、「日本一、世界一を目指す」柔道部として、柔道界に貢献ができるよう精進する所存です。

## 歴代事務局紹介

南海電気鉄道（昭和60年2月）から  
ダイコ口（昭和60年2月～平成16年5月）  
～連盟草創期から興隆期に至る事務局群像～

南海電気鉄道（以下「南海電鉄」と略す）が連盟事務局を構えた期間は連盟発足から昭和60年2月まで。否、それどころか昭和53年「第28回全日本実業団対抗柔道大会」（於・和歌山県立体育館）時、全日本実業柔道連盟から永年の事務局活動に対して贈られた感謝状には、「23年の永きにわたり西日本事務局を担当し」とあり、当時の23年前の昭和30年は、全日本実業柔道連盟の前身の「全日本実業団体体育連盟・柔道部会」結成の年に当たることから、連盟発足前から全日本実業柔道連盟主催大会の主管事務局を担っていたことになりました。

因みに、南海電鉄は大阪難波から和歌山市、高野山、関西空港を繋ぐ主要3路線を有する民営鉄道で、1884年（明治17年）創業の我が国で最も



古い民鉄です。来たる令和13年春には、着工中の「なにわ筋線」が新大阪駅から関西空港駅まで直通します。鉄道事業以外に他の民鉄同様、不動産事業、流通事業、ホテル観光事業等を展開しています。

連盟事務局だった当時は、

（株）トータルマリアージュサポート  
東レ（株）  
（株）戸高鋳業社  
豊建商事（株）  
ナニワ商事（株）  
南海辰村建設（株）  
南海不動産（株）  
日新被服（株）  
日本生命保険相互会社  
日本電化工業所（株）  
（株）日本トリム  
日本被服工業（株）  
初田防災設備（株）  
（株）服部組  
濱田 正次  
日立造船（株）  
不二熟学サービス（株）  
（株）フセナガセ  
水間鉄道（株）  
ミズノ（株）  
三菱ケミカル（株）  
（株）三菱UFJ銀行  
宮野医療器（株）  
（株）ミユキ  
森 和義  
（株）安川電機  
（株）ユアeshopp  
吉川工業（株）  
（有）隆祥産業  
ワイエスフード（株）

九電テクノシステムズ（株）  
京都医健専門学校  
（株）キョクトウ  
近畿通関（株）  
（株）きんでん  
（株）九櫻  
（株）クラレ  
（株）グルメ杵屋  
京阪ビルテクノサービス（株）  
社会医療法人恵風会 高岡病院  
（有）ケーズ  
医療法人光仁会  
港栄タイヤ商会  
小山（株）  
（株）コヤマホールディングス  
（株）佐々木冷菓  
サラヤ（株）  
SANDYS（株）  
医療法人十全会  
学校法人常翔学園  
日鉄興和不動産（株）  
日本製鉄（株）  
日本製鉄（株）広畑製鉄所  
医療法人聖光園細野診療所  
大金建設（株）  
ダイコロ（株）  
大日本電装（株）  
大宝運輸（株）  
辰巳 幸二  
（株）田村木材  
柘植 陽三  
東京六大学柔道部関西OB会

旭化成（株）  
阿比野建設（株）  
（公財）尼崎市スポーツ振興事業団  
飯田 隆  
（有）伊志嶺商会  
市橋 敬男  
伊藤整形外科  
岩谷産業（株）  
（株）内田組  
NRM ホールディングス（株）  
エフ・アール・ピーサービス（株）  
（株）エム・システム技研  
（株）エル・スエヒロフードサービス  
大阪ガス（株）  
岡端 武  
（株）オブテージ  
関西医療学園専門学校  
一般財団法人関西電気保安協会  
関西電力（株）  
関西七柔会囲碁の会  
（株）関西プライダル  
関西レコードマネジメント（株）  
（株）かんでんエンジニアリング  
関電サービス（株）  
（株）かんでんCSフォーラム  
関電ファシリティーズ（株）  
関電不動産開発（株）  
（株）KANSOテクノス  
九州電力（株）  
九州旅客鉄道（株）  
九星飲料工業（株）  
九大柔道部OB法曹一同

### ● 広告・賛助の協賛団体・個人（順不同・敬称略）

内田 猛氏、後に南海ホークス（現ソフトバンクホークス）球団代表を務めた塩見 猛氏（後に連盟理事長就任）及び同社理事を務めた川口善亮氏が事務局長を歴任しました。また、連盟副会長に加藤吉郎社長（当時）富士原諭史氏の寄稿では次のように記されています。「昭和40年2月にフットワークエクスプレス（当時）日本連送）柔道部が誕生した時、南海電鉄本社へ内田 猛事務局長を訪ねてから」とあり、事務局長は長く内田 猛氏であったと推測されます。

同氏は2代会長の銅金権二会長と非常に親しく、銅金会長が住友生命副社長当時、南海電気鉄道は同社から不動産開発事業の事業資金融資を受けていたが、銅金会長は同社本社を訪れるのは、旧本社ビル4階エレベーターを降りて右折する秘書室ではなく、左折する内田氏の勤務する総務部であり、これに気付いた秘書が秘書室へと促しても、総務部の狭い涉外コーナーから動くこうとされず、内田氏と友達口調で長話を続けられたというエピソードが残されています。

塩見氏は内田氏が昭和50年に定年退職された後に就任されたように推測されます。これと時期を同じくして、総務部に異動した吉原成起氏（現連盟参与）が事務局次長に就かれ、昭和60年の事務局移転まで同氏が事務局実務に携わって来られました。

なお、上述の永年の事務局活動に対する感謝状は、

全日本実業団対抗柔道大会開会式の壇上で、永野全実柔連会長（当時）から加藤社長（当時副社長）に贈られました。加藤社長は旧制四高から京都帝国大学を通じて柔道に打ち込まれ、風貌は永野会長とよく似ており、永野会長手ずから感謝状贈呈を受けたことにいたく感動された記憶が鮮明に残っています。これを一の契機として、事務局会社として成績はともかく大会欠場はまかりならないと叱咤されました。昭和50年代後半は中心選手の高齢化と新規入部が途絶え、出場メンバーを揃えることが困難な時期であり、メンバーの確保に苦労しました。

加藤社長は昭和58年に社長に就任されましたが、ほどなく病魔に侵され翌年に社長を辞任されました（60年3月逝去）。加藤社長の辞任後、ややあって社内事情により事務局返還の指示が下され、事務局を引き上げることになりました。

さりながら、実業柔道の草創期から揺籃期を経て興隆期に至る30年の間、本社内の一角に事務局を構えることを許され、多くの方は既に物故されていますが、連盟運営に対する深い理解をいただいた南海電鉄本社の関係各位及び長く事務局運営に携われた諸先輩に深く謝意を表します。

さて、事務局移転先は、昭和60年2月に大会開催が可能な規模の道場（ダイコ口武友館）を擁するダイコ口（株）に引き受けていただきました。事務局引き受けに当たっては、当初は経験が乏しいとためらわれましたが、会長（当時龍村基雄会長）会社として連盟運営の一翼を担っていた京阪電気鉄道（以下「京阪電鉄」と略す）柔道部幹部である吉田宏一氏、奥野直明氏等

が、ダイコロ武友館が京阪電鉄沿線にあって密な連携が可能なくともあり、京阪電鉄柔道部が全力でサポートするからと強く感懐されたと仄聞しています。

新事務局の体制は、ダイコロ武友館に事務局を置き、事務局長に清野正信氏(ダイコロ)、事務局次長に吉田宏一氏、奥野直明氏が就任されました。京阪電鉄柔道部による全面支援と民鉄柔道でライバルであり仲間である吉原成起氏(南海電鉄)の実務アドバイザー等もあずかつて、新事務局は滞ることなく業務継承され一層円滑な運営を続けられました。

最後に、ダイコロが事務局を引受けて後、平成2年4月に龍村会長から禅譲の形で副会長の松本 甫社長が5代会長に就任され、ダイコロ事務局は平成13年7月の清野正信氏から瀬戸口正現理事長への事務局長交替までの足掛け12年の永きにわたり、会長、事務局一体の専任体制で実業柔道の発展、連盟の円滑な運営に注力され、多大な功績を残されました。

●近畿通関株式会社(平成16年5月〜令和3年3月)

米澤三郎会長(近畿通関(株)会長)は、松本 甫第5代会長(ダイコロ(株)会長)の急逝により(平成15年11月)、急遽、第6代会長に就任されました。当時の米田圭佑理事長(近畿通関)とも相談し、翌16年に事務局をダイコロ武友館から近畿通関思道館に移転、以来令和3年まで約17年間、連盟事務局をお願いしました。米澤会長は連盟の先行きを熟慮されており、会長就任時に森詳介氏を副会長に招聘、平成17年に会長を禅譲、翌18年にご逝去されました。そんな米澤会長の示唆により、若手指導者の海外派遣や尼崎市少

年柔道紅白試合などの新企画や各大会の方針・運営等について、事務局の近畿通関思道館においていろいろ議論したことや、また時に近畿通関本社の会長応接室に呼ばれて歓談させてもらったこと等が、懐かしく思い出されます。

ご逝去後も米澤隆弘社長のご厚意で長らく、事務局として近畿通関思道館を使用させていただいたことに心より感謝申し上げます。またこの間の会社柔道部員の皆様や事務局担当でもあった阿部敏幸氏(近畿通関)には大変お世話になり、長年連盟を支えてもらって有難く感謝申し上げます。

●ダイコロ株式会社(令和3年4月〜現在に至る)



令和3年4月1日より約17年振りに西日本実業柔道連盟事務局をお預かりすることとなりました。長年事務局としてご尽力いただきました近畿通関株式会社様には厚く御礼申し上げますと共に、今後の西日本実業柔道連盟の更なる発展を目指し、弊社一同尽力して参る所存でございます。

ダイコロ株式会社柔道部といたしましては、事務局業務を通じ、若い選手に実業柔道人としての成長を促し、今後、連盟に寄与できる人材に育成したいと考えております。皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「令和4年度 総会・理事会・常任理事会合同会議」

令和4年度 総会・理事会・常任理事会合同会議は、令和4年4月12日(火)に、森 詳介会長が会員全員(連盟役員68名、企業・団体51名、合計119名)及び監事2名に対して、総会・理事会・常任理事会の決議の目的である左記の事項について提案を発し、当該提案につき、令和4年4月22日(金)までに会員全員から同意の意思表示と監事全員から異議がない旨の意思表示を得たことにより、当該議案を承認可決する旨の決議があったとみなされました。

- 第1号議案 令和3年度事業報告ならびに収支決算報告の件
- 第2号議案 令和4年度事業計画案ならびに予算案の件
- 第3号議案 令和3年度役員一部改選案の件

連盟インフォメーション

☆当連盟のホームページ  
<http://www.westjudo.jp/>  
 ※大会のより詳細な情報は当連盟ホームページをご覧ください。  
 ※ホームページでは、第1回大会(昭和35年)からの成績を掲載しています。また、ホームページを開設した第43回大会(平成15年)以降は、試合結果の詳細も掲載しています。

☆事務局

〒573-1132  
 大阪府枚方市招提田近2-1-8  
 ダイコロ株式会社内  
 電話 072(850)0773  
 FAX 072(850)0772  
 Eメール jim@westjudo.jp  
 ※電話に即答出来ない場合がありますことあらかじめご了承ください、出来るだけEメールによるご連絡をお願いします。

発行日 令和5年1月31日  
 発行 西日本実業柔道連盟  
 発行人 西日本実業柔道連盟 理事長 瀬戸口正征  
 編集 西日本実業柔道連盟 広報委員会  
 印刷 ダイコロ株式会社

国際複合一貫輸送  
 MULTIMODAL TRANSPORTERS  
 World Wide Network



KINKI TSUKAN

大阪市港区波除6丁目5番18号



国際複合一貫輸送  
 MULTIMODAL TRANSPORTERS  
 World Wide Network



## サラヤは世界の衛生・環境・健康に貢献します

アフリカ・ウガンダでの衛生環境改善活動や  
マレーシア・ボルネオ島での生物多様性保全活動に取り組んでいます

いのちをつなぐ  
**SARAYA**